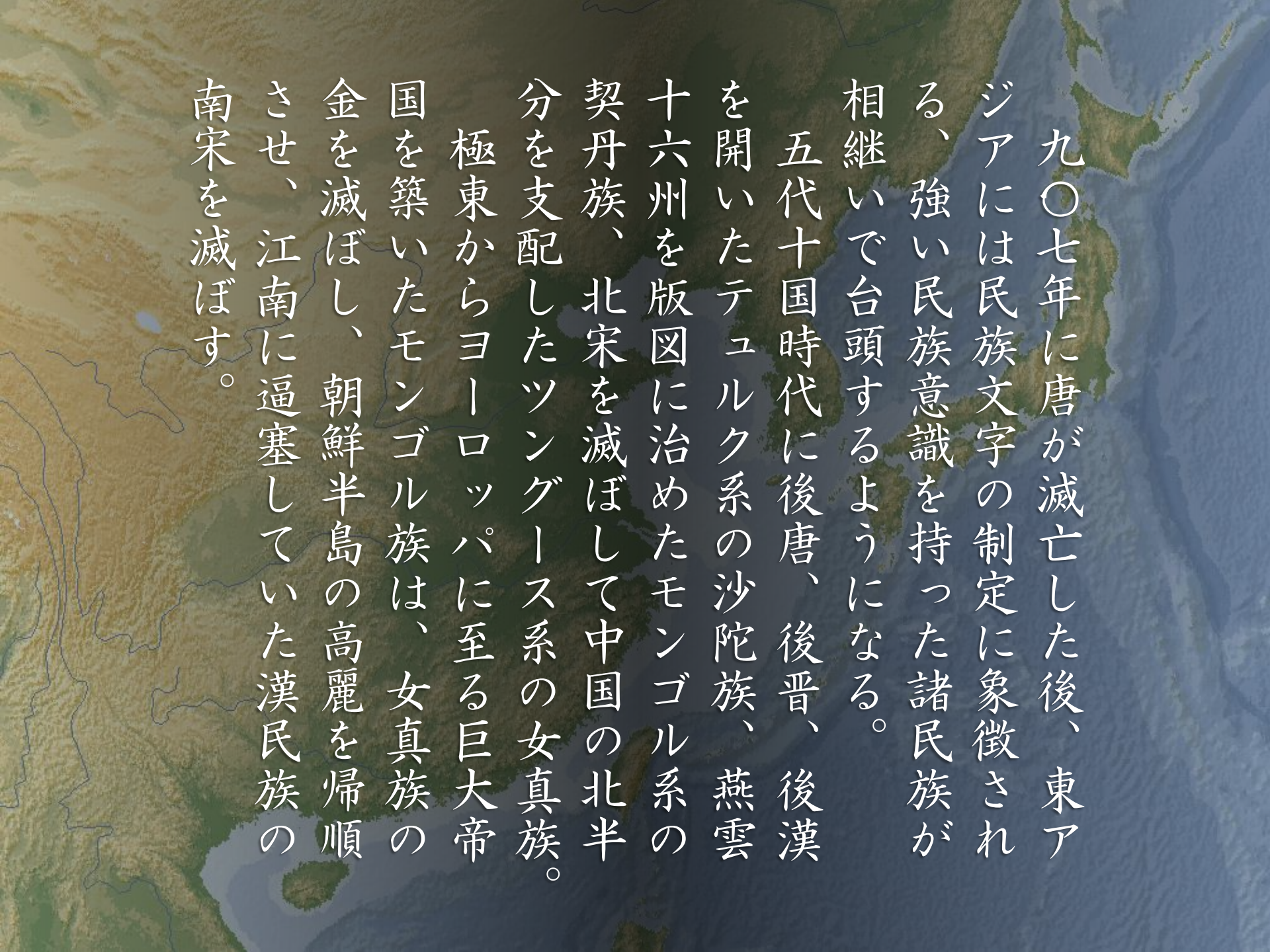


A stylized, dark-toned map of East Asia, showing the Korean Peninsula, Japan, and the surrounding seas. The map is rendered in shades of brown, green, and blue, with a textured, almost topographical appearance. It serves as the background for the text.

中国の文化Ⅲ

日中文化交流史

第七回 元寇



九〇七年に唐が滅亡した後、東アジアには民族文字の制定に象徴される、強い民族意識を持った諸民族が相継いで台頭するようになる。

五代十国時代に後唐、後晋、後漢を開いたテュルク系の沙陀族、燕雲十六州を版図に治めたモンゴル系の契丹族、北宋を滅ぼして中国の北半分を支配したツングース系の女真族。

極東からヨーロッパに至る巨大帝国を築いたモンゴル族は、女真族の金を滅ぼし、朝鮮半島の高麗を帰順させ、江南に逼塞していた漢民族の南宋を滅ぼす。

1600BC	殷 1600BC頃-1046BC		
1500BC			
1400BC			
1300BC			
1200BC			
1100BC	周 1046BC-771BC		
1000BC			
900BC			
800BC			
700BC			
600BC	春秋戦国時代 770BC-221BC		
500BC			
400BC			
300BC			
200BC			
100BC	秦 221BC-207BC		
0	漢 206BC-220AD		
100			
200			
300			
400			
500	魏 220-265	蜀 221-263	呉 222-280
600	晋 265-316		
700	五胡十六国時代		東晋 317-420
800	北朝 439-589		南朝 420-589
900	隋 581-619		
1000	唐 618-907		
1100			
1200	五代十国 907-960		
1300	遼	北宋 960-1127	
1400	金 1115-1234		南宋 1127-1279
1500	元 1271-1368		
1600	明 1368-1644		
1700			
1800			
1900	清 1616-1912		
2000	中華民国 1912-1949		
	中華人民共和国 1949-		



1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

契丹文字



晋 265-316

五胡十六国時代 東晋 317-420

北朝 439-589 南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼 北宋 960-1127

金 1115-1234 南宋 1127-1279

元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中華民國 1912-1949

中華人民共和國 1949-

10世紀初め耶律阿保機が
契丹大字を制定公布



西夏文字



300	魏 220-265	蜀 221-263	吳 222-280
400	晉 265-316		
500	五胡十六国時代	東晉 317-420	
600	北朝 439-589	南朝 420-589	
700	隋 581-619		
800	唐 618-907		
900	五代十国 907-960		
1000	遼	北宋 960-1127	
1100	金 1115-1234	南宋 1127-1279	
1200	元 1271-1368		
1300	明 1368-1644		
1400	清 1616-1912		
1500	中華民國 1912-1949		
1600	中華人民共和國 1949-		
1700			
1800			
1900			
2000			

1600BC	殷 1600BC頃-1046BC			
1500BC				
1400BC				
1300BC				
1200BC				
1100BC	周 1046BC-771BC			
1000BC				
900BC				
800BC				
700BC				
600BC	春秋戦国時代 770BC-221BC			
500BC				
400BC				
300BC				
200BC				
100BC	秦 221BC-207BC			
0	漢 206BC-220AD			
100				
200				
300				
400				
500	魏 220-265		蜀 221-263	吳 222-280
600	晋 265-316			
700	五胡十六国時代		東晋 317-420	
800	北朝 439-589		南朝 420-589	
900	隋 581-619			
1000	唐 618-907			
1100				
1200	五代十国 907-960			
1300	遼	北宋 960-1127		
1400	金 1115-1234		南宋 1127-1279	
1500	元 1271-1368			
1600	明 1368-1644			
1700				
1800				
1900	清 1616-1912			
2000	中華民国 1912-1949			
	中華人民共和国 1949-			



1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265 蜀 221-263 吳 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代 東晋 317-420

北朝 439-589 南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼 北宋 960-1127

金 1115-1234 南宋 1127-1279

元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中華民國 1912-1949

中華人民共和國 1949-

13世紀初めウイグル文字を
基にモンゴル文字が誕生



1600BC	殷 1600BC頃-1046BC		
1500BC			
1400BC			
1300BC			
1200BC			
1100BC			
1000BC			
900BC	周 1046BC-771BC		
800BC			
700BC	春秋戦国時代 770BC-221BC		
600BC			
500BC			
400BC			
300BC			
200BC			
100BC			
0	秦 221BC-207BC		
100			
200	漢 206BC-220AD		
300			
400	魏 220-265	蜀 221-263	呉 222-280
500	晋 265-316		
600	五胡十六国時代		東晋 317-420
700	北朝 439-589		南朝 420-589
800	隋 581-619		
900			
1000	唐 618-907		
1100			
1200	五代十国 907-960		
1300	遼	北宋 960-1127	
1400	金 1115-1234	南宋 1127-1279	
1500	元 1271-1368		
1600	明 1368-1644		
1700			
1800	清 1616-1912		
1900	中華民国 1912-1949		
2000	中華人民共和国 1949-		



征服王朝

Conquest Dynasties

Karl August Wittfogel (1896～1988)

十三世紀の末、日本は白村江の戦い以来の対外的危機を迎える。

極東からヨーロッパに至る巨大帝国を築いたモンゴルが、高麗を帰順させ、南宋攻略と前後して、二度にわたり日本遠征を行ったのである。

元寇と呼ばれる日本遠征の前に、モンゴルと日本との間ではどのような外交交渉が行われたのか。モンゴルが日本遠征に失敗した真の理由は何だったのか。一方、こうした対立の間も東アジアの貿易や文化交流は絶えることはなかったが、それを支えたのはどのような人々だったか。今回の講義ではこれらの問題について考えてみたい。

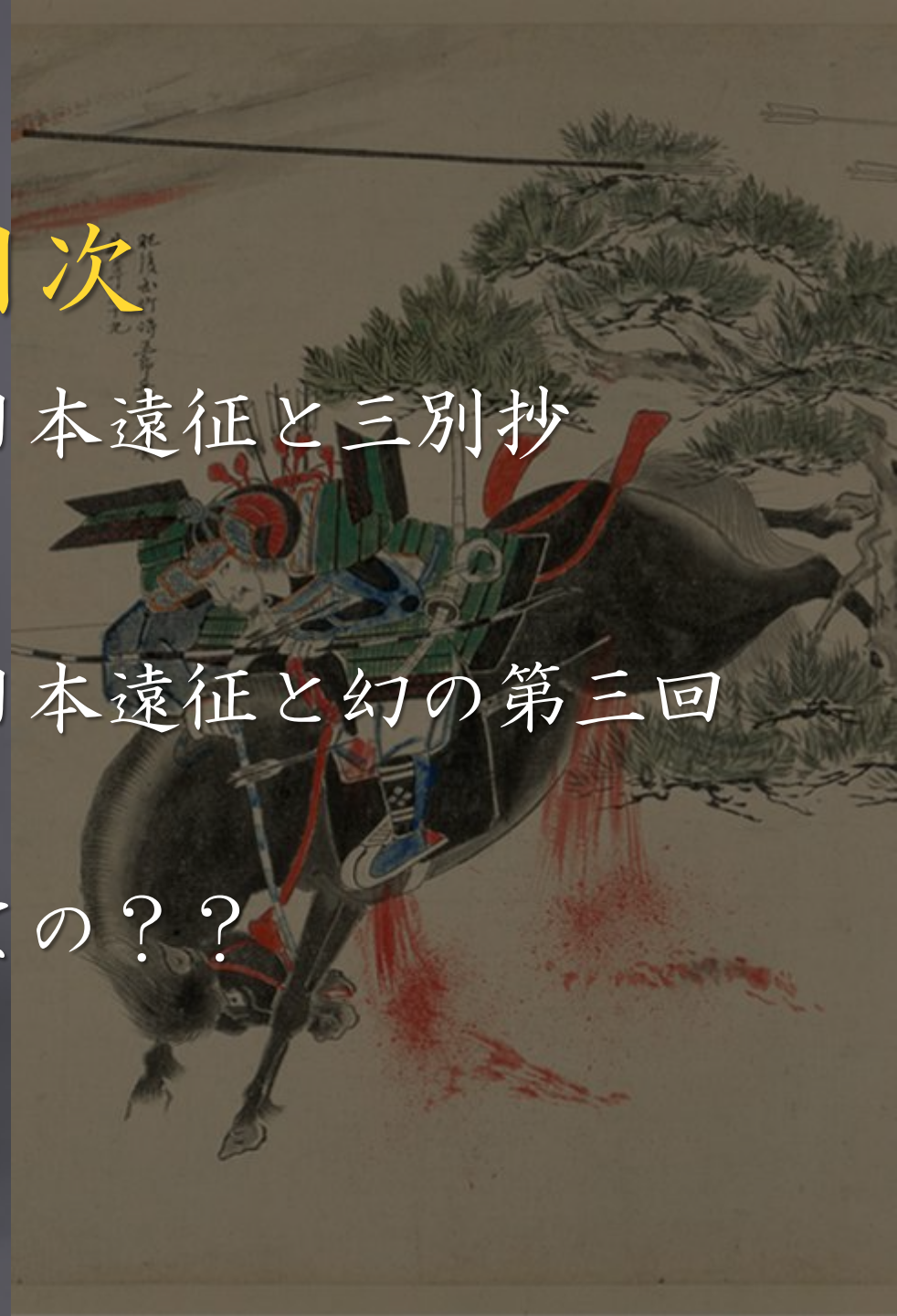
目次

第一節 元の第一回日本遠征と三別抄

第二節 南宋の滅亡

第三節 元の第二回日本遠征と幻の第三回
遠征計画

第四節 外交官としてのの??



1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265 蜀 221-263 吳 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代 東晋 317-420

北朝 439-589 南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼 北宋 960-1127

金 1115-1234 南宋 1127-1279

元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

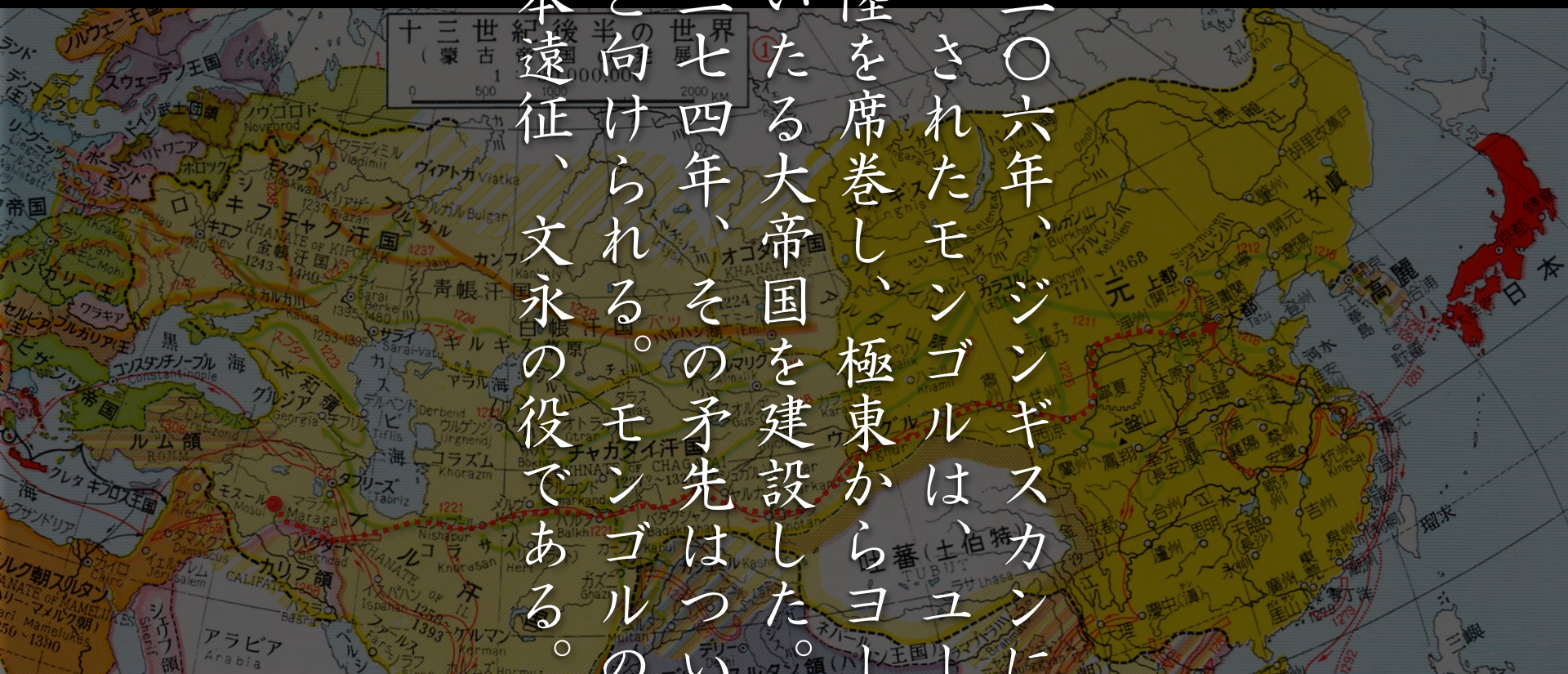
中華民国 1912-1949

中華人民共和国 1949-

第一節 元の第一回日本遠征と三別抄



一二〇六年、ジンギスカンによつて統一されたモンゴルは、ユーラシア大陸を席卷し、極東からヨーロッパにいたる大帝國を建設した。一二七四年、その予先はついに日本へと向けられる。モンゴルの第一回日本遠征、文永の役である。





モンゴルの第五代皇帝クビライ

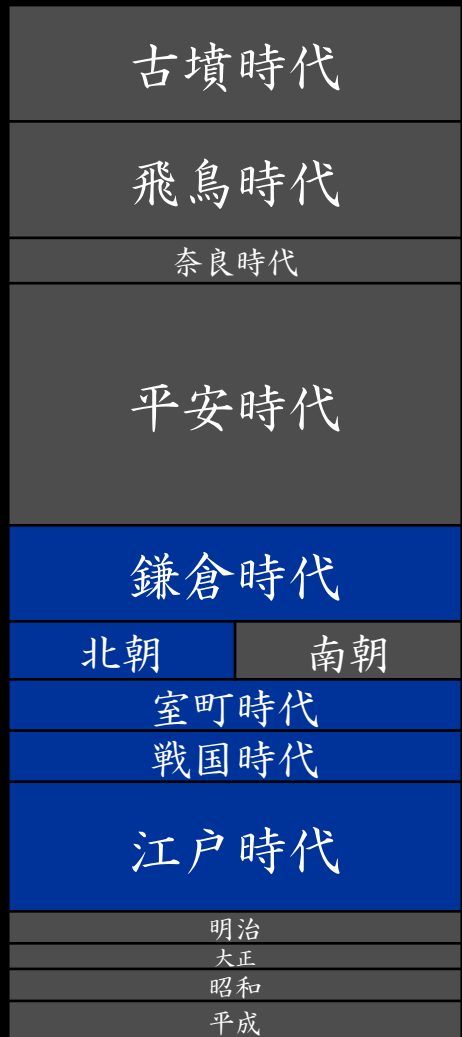


鎌倉幕府第八代執権・北条時宗

東アジアの武人支配

弥生時代

BC200
BC100
0
AD100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000



1192 鎌倉幕府成立
1334 建武の新政
1867 大政奉還

Q

モンゴルの皇帝クビライは、日本への遠征を行う前にあることを行った。それは何か？

①日本に先遣隊を派遣して、防衛設備の破壊を行った

②日本に親書を送り、平和的外交関係を求めた

NHK E

NHK ETV特集「日本と朝鮮の2000年第6集」より

第一回日本遠征の六年前（一二六八年）、モンゴルの第五代皇帝クビライは、外交交渉のため、日本に親書を送った。

上その写しが奈良東大寺に保存されている。『蒙古国牒状（調伏異朝怨敵抄）』である。惟自古小國之君境土相接尚勢誨信倏睦况我祖宗受天明命奄有區夏遐方異域畏威懷德者不可悉數朕即位之初以高麗无辜之民久瘁鋒鏑即令罷兵還其疆域及其

蒙古國牒狀

上天眷命

大蒙古國皇帝奉書

日本國王朕惟自古小國之君
境土相接尚勢講信脩睦况我
祖宗受天明命奄有區夏遐方異
域畏威懷德者不可悉數朕即
位之初以高麗元韋之民久瘁
鋒鏑即令罷兵還其疆域及其

クビライからの親書

天命を受けた大蒙古国の皇帝が、
書を日本国王に奉る。

朕が思うに、昔から国境を接する
ものは、小国の君主であつても音信
を通じあい、和睦に努めてきた。ま
して我が祖宗は天命を受け、中国を
領有した。

蒙古国牒状

蒙古国牒状(奈良東大寺尊勝院藏)

上天眷命

大蒙古国皇帝奉書

日本国王朕惟自古小国之君
境土相接尚蒙誨信脩睦况我
祖宗受天明命奄有區夏遐方異
域畏威懷德者不可悉數朕即
位之初以高麗元事之氏久瘁
鋒鏑即令罷兵還其疆域及其

クビライからの親書

周辺の国々もわが威を恐れ、徳を慕うものは数知れない。朕が即位した初め、高麗の無辜の民が長く戦争に苦しんでいたため、兵を引き揚げ、国土を還し、老人子供を帰らせた。

蒙古國牒狀(奈良東大寺尊勝院藏)

蒙古國牒狀

上天眷命

大蒙古國皇帝奉書

日本國王朕惟自古小國之君
境土相接尚勢講信脩睦况我
祖宗受天明命奄有區夏遐方異
域畏威懷德者不可悉數朕即位
之初以高麗无辜之民久瘁
鋒鏑即令罷兵還其疆域及其

旄倪高麗君臣咸戴來朝義雖
君臣而歡若父子計

王之君臣亦已知之高麗朕之
東藩也日本密通高麗開國以
來亦時通中國至於朕躬而無
一無之使以通和好尚恐
王國知之未審故特遣使持書
クビライが^{ミム}朕^{ミカド}の^{ツコ}親書^{シンショ} 以^{ヨリ}往^{ナリ}通^{ツウ}問^{モン}結^{ケツ}

高麗の君臣は感激して來朝し、君
と臣の關係ではあるが、父子のよう
に仲睦まじくしている。思うにこの
ことは王の君臣もすでにご存じであ
ろう。高麗は朕の東の藩属国であり、
日本は高麗と密接な關係にあり、開
国以來しばしば中国とも通交してい
る。

旄倪高麗君臣咸戴來朝義雖
君臣而歡若父子計

王之君臣亦已知之高麗朕之
東藩也日本密通高麗開國以
來亦時通中國至於朕躬而無
一無之使以通和好尚恐
王國知之未審故特遣使持書
布告朕志與自今以往通問結

クビライ相親書の親書人以四海為

ところが朕が即位して以来一度
も平和友好の使節を送って来ない。
これは王がご存じないからであらう
と思い、使節を派遣し、親書を持参
させ、朕の意を伝えることにした。

クビライからの親書

願わくは、今後は交流を深めて友好関係を結び、和睦をはかりたい。

東藩也日蒙古國牒狀(奈良東大寺尊勝院藏)

來亦時通中國至於朕躬而無
一棄之使以通和好尚恐
王國知之未審故特遣使持書
布告朕志真自今以往通問結

好以相親睦且聖人以四海為
家不相通好豈一家之理哉至
用兵夫孰所好
王具圖之不宣

至元三年八月日

クビライからの親書

聖人は四海を以って家とするとい
うが、互いに交流を深めずにどうし
て一家ということができようか。ま
して刃を交えるなど、誰がそれを望
もうか。王よ、どうか熟慮されよ。

至元三年八月日

王國之未審故特遣使持書
蒙古國牒狀(奈良東大寺尊勝院藏)
布告朕志真自命以往通問結

好以相親睦且聖人以四海為
家不相通好豈一家之理哉至
用兵夫孰所好
王具圖之不宣

至元三年八月日

クビライが日本に親書を送った当時、高麗はどのような状況にあったのだろうか。

大蒙古國皇帝奉書

日本國王朕惟自古小國之君
境土相接尚勢講信脩睦况我
祖宗受天明命奄有區夏遐方異
域畏威懷德者不可悉數朕即
位之初以高麗无辜之民久瘁
鋒鏑即令罷兵還其疆域及其



A stylized map of the Korean peninsula and surrounding regions, rendered in a watercolor-like style. The landmasses are colored in shades of brown and tan, while the surrounding waters are a dark, muted green. The map highlights three major ancient Korean kingdoms: Goguryeo (高句麗) in yellow, Baekje (百濟) in purple, and Silla (新羅) in green. The labels are in white Chinese characters. The Goguryeo territory covers the northern and central parts of the peninsula, while Baekje and Silla are located in the southern part. The map also shows the surrounding landmasses of Manchuria to the north and the Japanese archipelago to the east.

高句麗

新羅

百濟

Q 親書を無視し、外交交渉を拒否した日本に対し、クビライは第一回遠征を計画する。しかし、それが実行されたのは、六年も後のことだった。なぜ遠征は遅れたのか？

① 朝鮮半島でモンゴルに対する激しい抵抗運動が起ったため

② クビライが亡くなり、モンゴル内部で後継者争いが起った

祖宗受天^トため命奄有^{クモリ}區夏^{クワ}遐方^{キョウ}異

域畏威懷德者不可悉數朕即

位之初以高麗元章之氏久痔

鋒鏑即令罷兵還其疆域及其

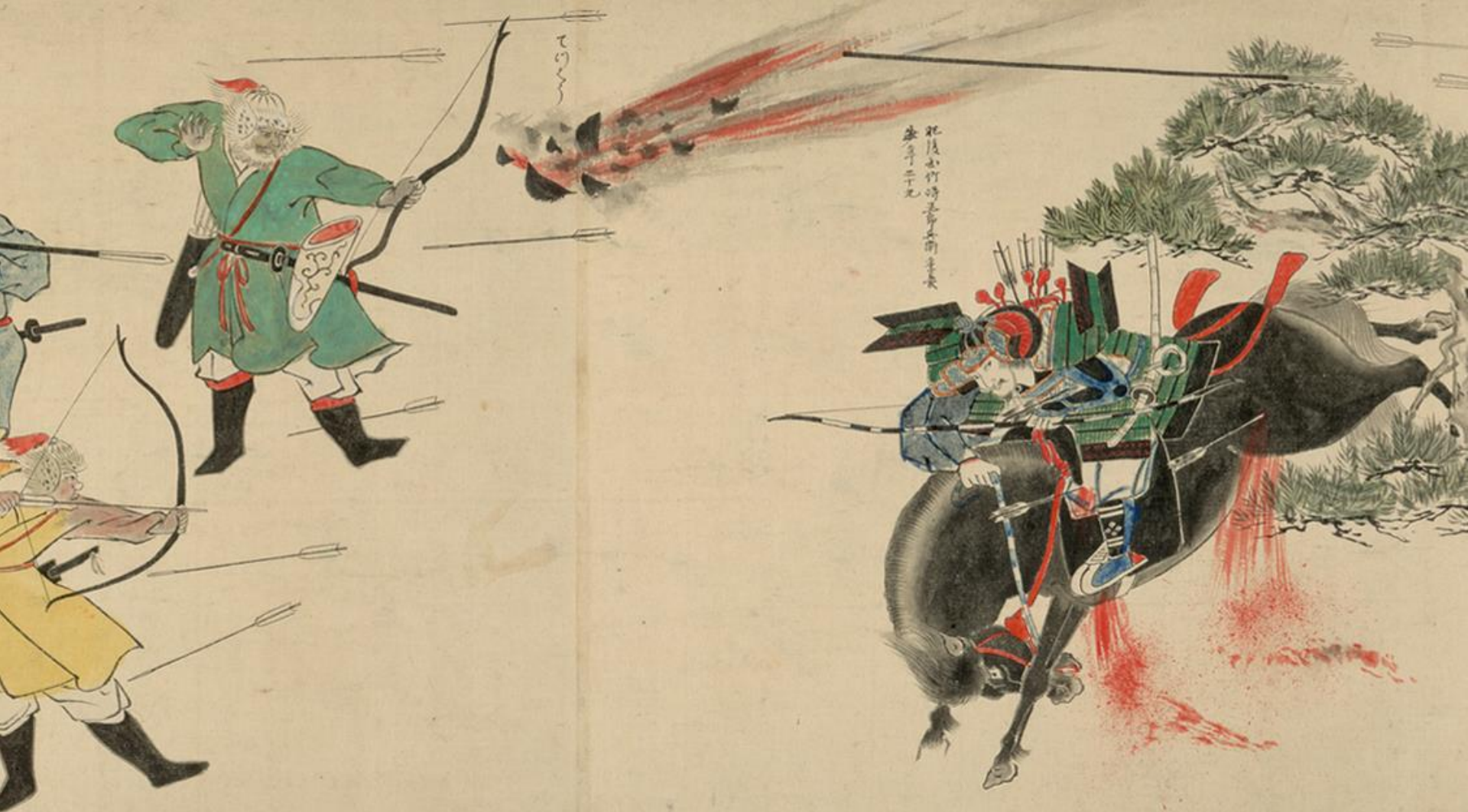


蒙古襲来絵詞(模写本 原本は宮内庁三の丸尚蔵館蔵)



肥後国の御家人竹崎季長が自身の元寇での活躍を描かせた絵詞

蒙古襲来絵詞(模写本 原本は宮内庁三の丸尚蔵館蔵)



肥後国の御家人竹崎季長が自身の元寇での活躍を描かせた絵詞

蒙古襲来絵詞(模写本 原本は宮内庁三の丸尚蔵館蔵)



て
天
川
を
者
う
宇

て
つ
は
う

肥後国の御家人竹崎季長が自身の元寇での活躍を描かせた絵詞



てっぽう

stoneware bomb

火薬や鉄片が入れた
陶器製の炸裂弾

1600BC	殷 1600BC頃-1046BC	
1500BC		
1400BC		
1300BC		
1200BC		
1100BC	周 1046BC-771BC	
1000BC		
900BC		
800BC		
700BC		
600BC	春秋戦国時代 770BC-221BC	
500BC		
400BC		
300BC		
200BC	秦 221BC-207BC	
100BC		
0	漢 206BC-220AD	
100		
200	魏 220-265	蜀 221-263
300		呉 222-280
400	五胡十六国時代	
500	北朝 439-589	東晋 317-420
600		南朝 420-589
700	隋 581-619	
800	唐 618-907	
900		
1000	五代十国 907-960	
1100	遼	北宋 960-1127
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279
1300	元 1271-1368	
1400	明 1368-1644	
1500		
1600		
1700	清 1616-1912	
1800		
1900		
2000	中華民国 1912-1949	
	中華人民共和国 1949-	

第二節 南宋の滅亡



日本への第一回遠征の後、クビライは南宋への攻撃を本格化し、その防衛拠点の一つ襄陽城を攻撃する。

南宋の防衛拠点・襄陽(現在の襄陽)

南宋

南宋の都・臨安(現在の杭州)



南宋の防衛拠点・襄陽

This map shows the territory of the Southern Song Dynasty in brown, covering southern and eastern China. It highlights the strategic location of Xiangyang as a defense point and Lin'an as the capital. The map includes geographical features like rivers and the surrounding seas.

南宋

南宋の都・臨安(現在の杭州)



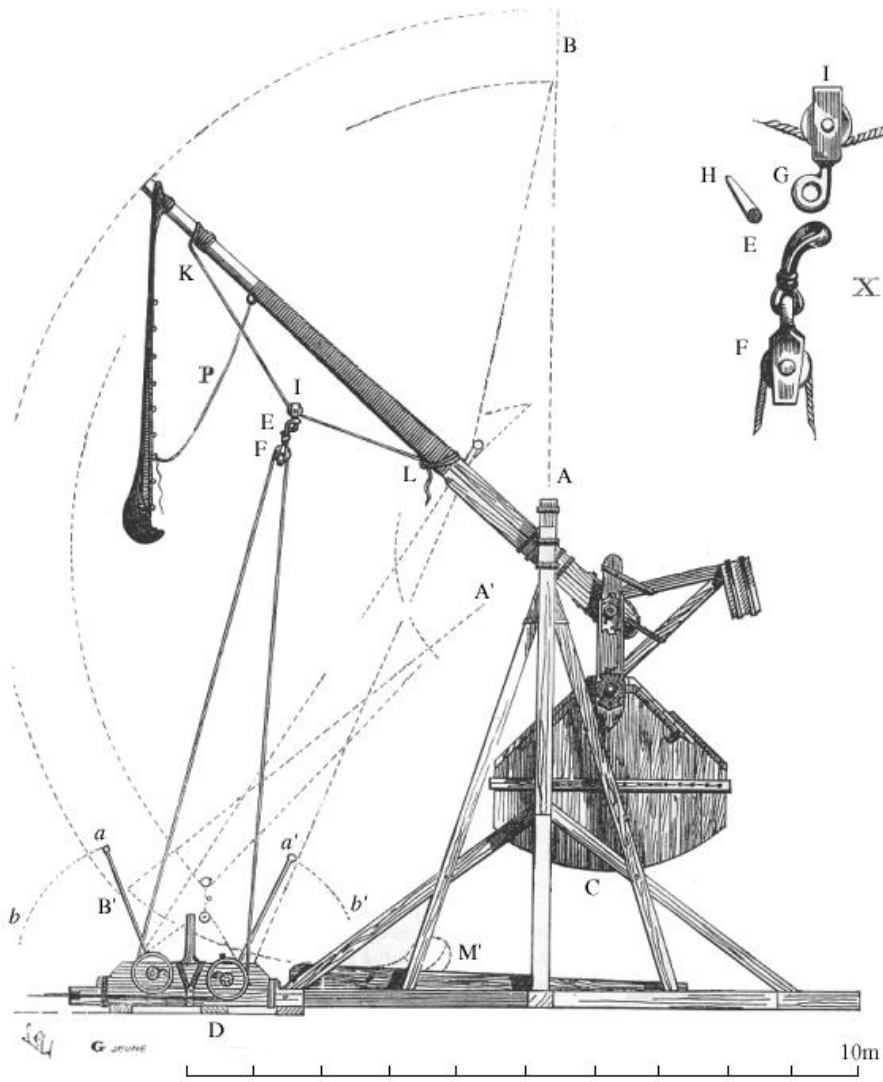
襄陽城

Q

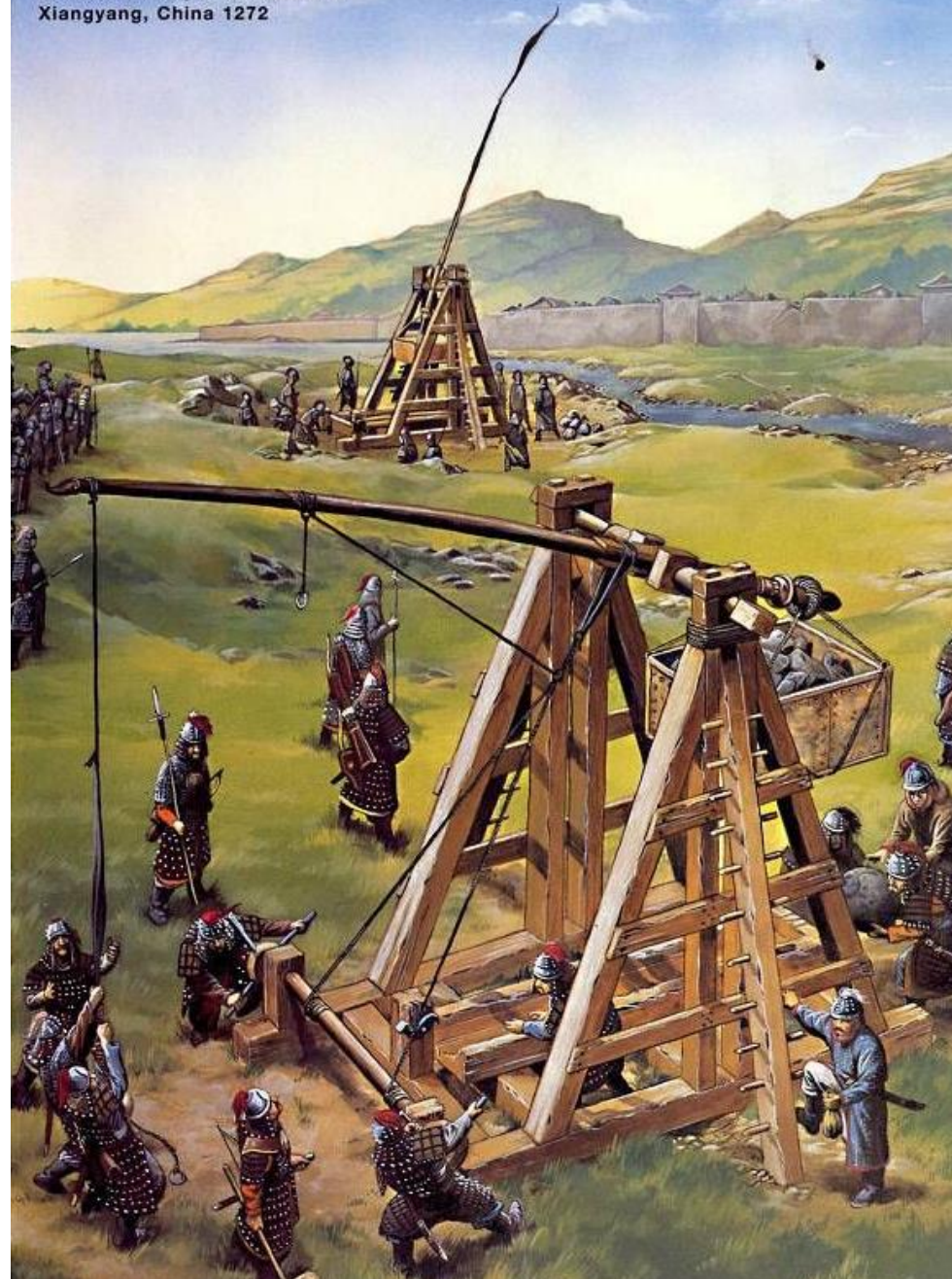
幅四五〇メートルという広大な外堀に守られた襄陽城を攻め落とすため、クビライはある新兵器を利用する。その新兵器とは何か？

①潜水艦

②投石機



E: Counterweight trebuchet at Xiangyang, China 1272



回回砲(Trebuchet)



Q

クビライは襄陽城を攻略するために新型投石機の技術者を招いた。この技術者とはどのような人か？

①西域のイスラム教徒

②日本人

イスラム教徒の砲術家たち銀百兩織紋段

襄陽城の攻撃は一六八八年頃から
始まったが足拱難攻不落を誇るこの城
を攻め落とすことは難しかった。

クビライはペシルシアを支配して
イル・ハン国に依頼し、十字軍と
の戦いで最新鋭の投石機の技術を有
していたイスラム教徒の砲術家ア
ラーウツデインとイスMAILIL
を大都に呼びよせ、同砲襄陽城の攻略に
その新型投石機(回回砲)投入した。

皇慶元年卒子瑪哈瑪迪沙襲

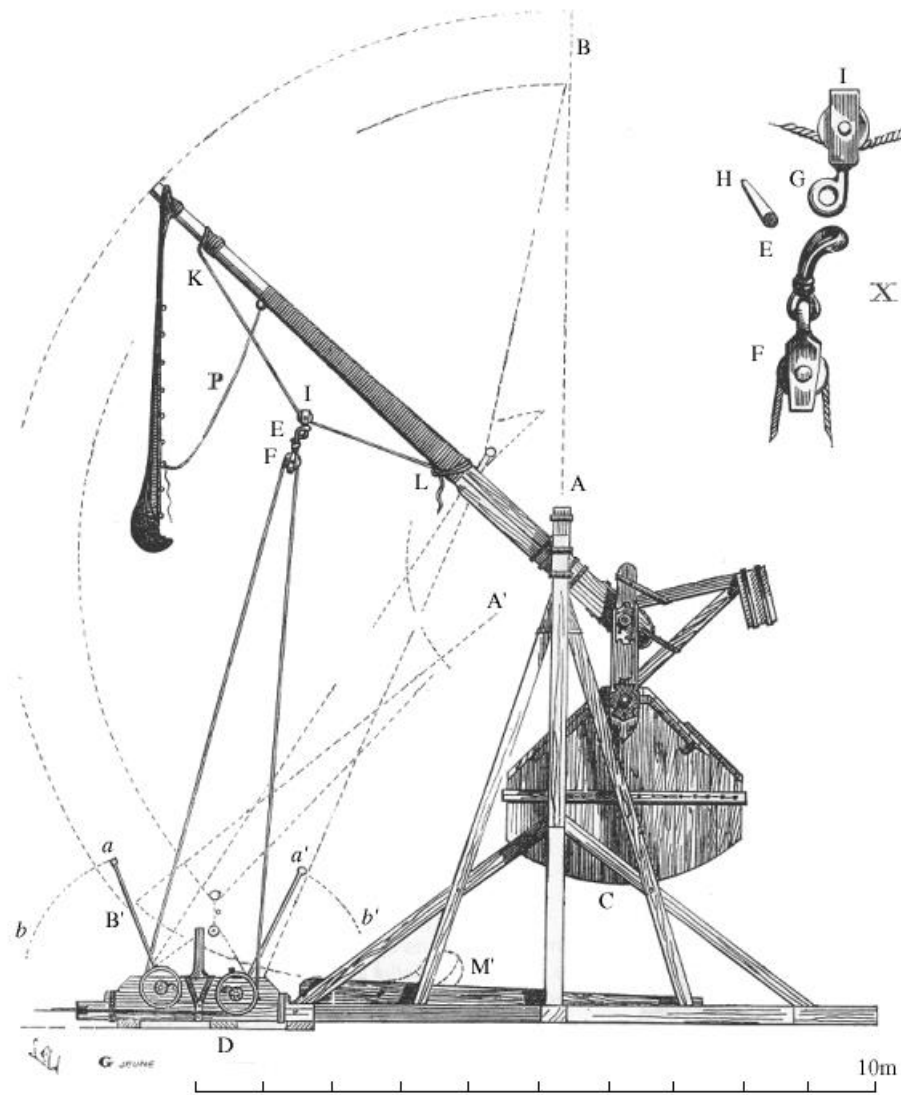
伊斯瑪音同回氏西域實喇人也善造礮至元八年與
阿喇卜丹至京師十年從國兵攻襄陽未下伊斯瑪音

乾隆四年校刊

元史卷二百三

列傳

卅



元史卷二百三亦思馬因伝

應詔二人舉家馳驛至京師給以官舍首造大礮豎於五門前帝命試之各賜衣段十一年國兵渡江平章阿爾哈雅遣使求礮手匠命阿喇卜丹往破潭州靜江等郡悉賴其力十五年授宣武將軍管軍總管十七年陞見賜鈔五千貫十八年命屯田於南京二十二年樞密院奉旨改元帥府爲回回礮手軍匠上萬戶府以阿喇卜丹爲副萬戶大德四年告老子布木濟勒襲副萬戶皇慶元年卒子瑪哈瑪廸沙襲

伊斯瑪音回回氏西域實喇人也善造礮至元八年與阿喇卜丹至京師十年從國兵攻襄陽未下伊斯瑪音

イスラム教徒の砲術家たち

イスマールはイスラム教徒で、西域の実喇の人である。投石機の製造に優れた技術を持っていた。

至元八年（一二七一年）、アラール・ウッデーンとともに都に呼ばれ、十年（一二七三年）、襄陽城の攻撃に従った。

元史卷二〇三 亦思馬因伝

爾哈雅遣使求礮手匠命阿喇卜丹往破潭州靜江等郡悉賴其力十五年授宣武將軍管軍總管十七年陛見賜鈔五千貫十八年命屯田於南京二十二年樞密院奉旨改元帥府爲回回礮手軍匠上萬戶府以阿喇卜丹爲副萬戶大德四年告老子布木濟勒襲副萬戶皇慶元年卒子瑪哈瑪廸沙襲

伊斯瑪音回回氏西域實喇人也善造礮至元八年與阿喇卜丹至京師十年從國兵攻襄陽未下伊斯瑪音

①



E: Counterweight trebuchet at
Xiangyang, China 1272



相地勢置礮於城東南隅重一百五十斤機發聲震天
地所擊無不摧陷入地七尺宋安撫呂文煥懼以城降
既而以功賜銀二百五十兩命爲回回礮手總管佩虎
符十一年以疾卒子本布襲職時國兵渡江宋兵陳於
南岸擁舟師迎戰本布於北岸豎礮以擊之舟悉沉沒
後每戰用之皆有功十八年佩三珠虎符加鎮國上將
軍回回礮手都元帥明年改軍匠萬戶府萬戶遷刑部
尙書以弟額布爾沁爲萬戶佩元降虎符官廣威將軍
本布俄進通奉大夫浙東道宣慰使賜鈔二萬五千貫
俾養老焉子哈克繼廕授昭信校尉高郵府同知致和

相地勢置礮於城東南隅重一百五十斤機發聲震天地所擊無不摧陷入地七尺宋安撫呂文煥懼以城降既而以功賜銀二百五十兩命爲回回礮手總管佩虎符十一年以疾卒子本布襲職時國兵渡江宋兵陳於南岸擁舟師迎戰本布於北岸豎礮以擊之舟悉沉沒後每戰用之皆有功十八年佩三珠虎符加鎮國上將軍回回礮手都元帥明年改軍匠萬戶府萬戶遷刑部尙書以弟額布爾沁爲萬戶佩元降虎符官廣威將軍本布俄進通奉大夫浙東道宣慰使賜鈔二萬五千貫

投石機の威力

(イスマールは)地勢を調べ、投石機を襄陽城の東南の隅に置いた。重さ百五十斤(約九十キロ)もある砲弾が発射されると爆音は天地を震わせ、被弾した所はすべて破壊され、砲弾は地下七尺(約二メートル)に達した。南宋の安撫・呂文煥はこれに驚き、城を開いて投降した。

1600BC	殷 1600BC頃-1046BC	
1500BC		
1400BC		
1300BC		
1200BC		
1100BC	周 1046BC-771BC	
1000BC		
900BC		
800BC		
700BC		
600BC	春秋戦国時代 770BC-221BC	
500BC		
400BC		
300BC		
200BC		
100BC	秦 221BC-207BC	
0	漢 206BC-220AD	
100		
200	魏 220-265 蜀 221-263 呉 222-280	
300		
400	晋 265-316	
500	五胡十六国時代	
600		
700	隋 581-619	
800	唐 618-907	
900		
1000	五代十国 907-960	
1100	遼	北宋 960-1127
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279
1300	元 1271-1368	
1400	明 1368-1644	
1500		
1600	清 1616-1912	
1700		
1800		
1900		
2000		
	中華民国 1912-1949	
	中華人民共和国 1949-	

第三節

元の第二回日本遠征と 幻の第三回遠征計画



Q

第一回日本遠征(文永の役)の翌
一二七五年、クビライは、再び
日本に外交使節を派遣したが、
日本はこれにどう対応したか？

①外交使節を殺してしまった

②戦争回避の交渉を行った



第一回日本遠征（文永の役）の翌一
二七五年、クビライは再び日本に外
交使節を派遣する。しかし、ときの
執権・北条時宗は使節団を鎌倉に連
行し、正使・杜世忠以下五名を斬首
した。

激怒したクビライは、一二八一年、
第二回日本遠征（弘安の役）を行つた。



常立寺に伝わる「元使塚」(神奈川県藤沢市)

蒙古襲来絵詞(模写本 原本は宮内庁三の丸尚蔵館蔵)



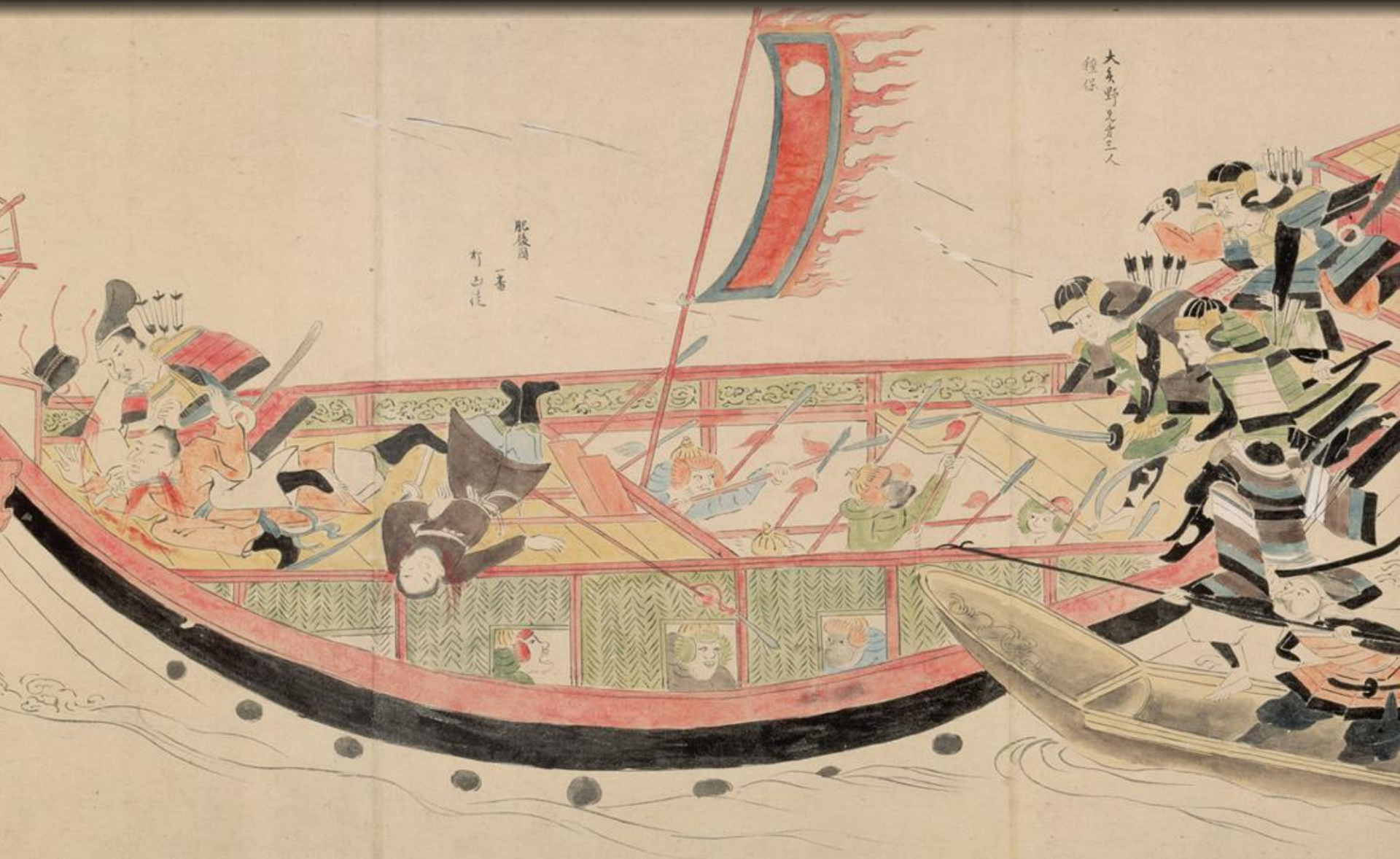
肥後国の御家人竹崎季長が自身の元寇での活躍を描かせた絵詞

元寇防塁跡(福岡市)

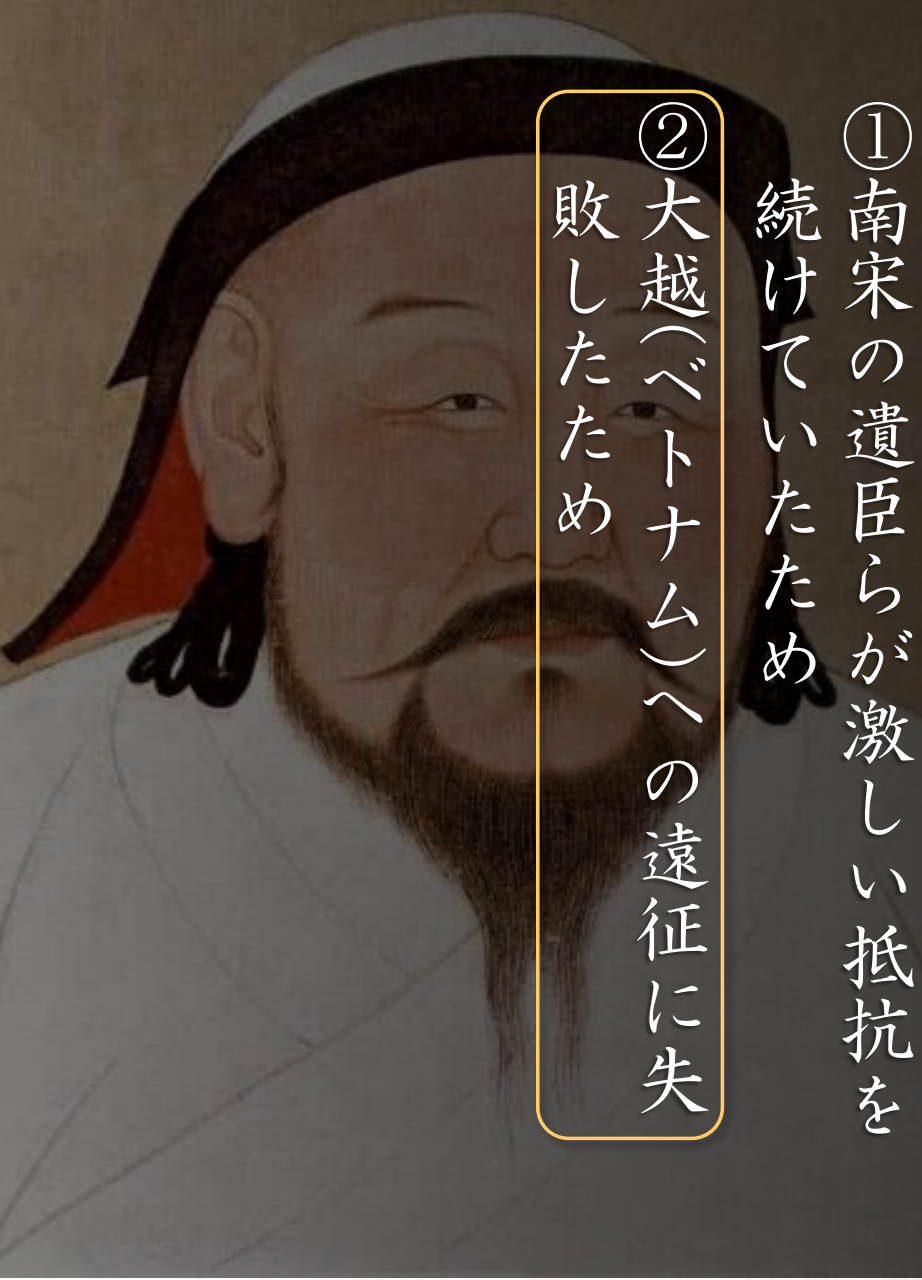


1276年に博多湾沿岸に建造された石塁。高さ2.5～3m 全長20km

蒙古襲来絵詞(模写本 原本は宮内庁三の丸尚蔵館蔵)



肥後国の御家人竹崎季長が自身の元寇での活躍を描かせた絵詞



- ①南宋の遺臣らが激しい抵抗を
続けていたため
- ②大越（ベトナム）への遠征に失
敗したため



元は三度目の日本遠征を計画し
ていたが、これはある理由から
中止されることになった。その
理由とは何か？



NHK ETV特集「日本と朝鮮の2000年 第6回」より

1600BC	殷 1600BC頃-1046BC		
1500BC			
1400BC			
1300BC			
1200BC			
1100BC	周 1046BC-771BC		
1000BC			
900BC			
800BC			
700BC			
600BC	春秋戦国時代 770BC-221BC		
500BC			
400BC			
300BC			
200BC			
100BC	秦 221BC-207BC		
0	漢 206BC-220AD		
100			
200			
300			
400			
500	魏 220-265	蜀 221-263	呉 222-280
600	晋 265-316		
700	五胡十六国時代		東晋 317-420
800	北朝 439-589		南朝 420-589
900	隋 581-619		
1000	唐 618-907		
1100			
1200	五代十国 907-960		
1300	遼	北宋 960-1127	
1400	金 1115-1234	南宋 1127-1279	
1500	元 1271-1368		
1600	明 1368-1644		
1700			
1800	清 1616-1912		
1900	中華民国 1912-1949		
2000	中華人民共和国 1949-		

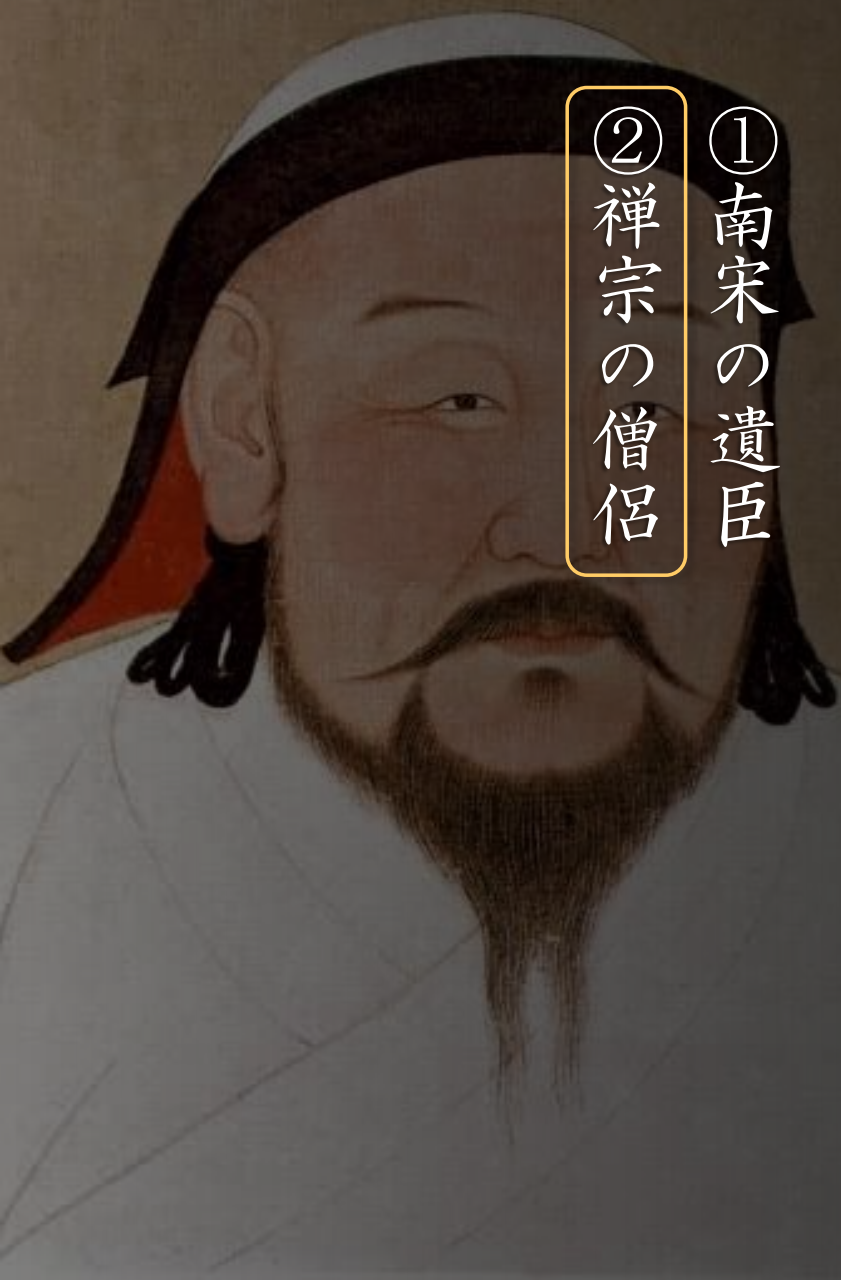


1600BC	殷 1600BC頃-1046BC	
1500BC		
1400BC		
1300BC		
1200BC		
1100BC	周 1046BC-771BC	
1000BC		
900BC		
800BC		
700BC		
600BC	春秋戦国時代 770BC-221BC	
500BC		
400BC		
300BC		
200BC		
100BC	秦 221BC-207BC	
0	漢 206BC-220AD	
100		
200	魏 220-263 蜀 221-263 呉 222-280 西 265-316 東 265-316	
300		
400	五胡十六国時代	東晋 317-420
500	北朝 439-589	南朝 420-589
600	隋 581-619	
700	唐 618-907	
800		
900	五代十国 907-960	
1000	遼	北宋 960-1127
1100		
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279
1300	元 1271-1368	
1400	明 1368-1644	
1500		
1600	清 1616-1912	
1700		
1800	中華民國 1912-1949 中華人民共和国 1949-	
1900		
2000		

第五節

外交官としてのの??



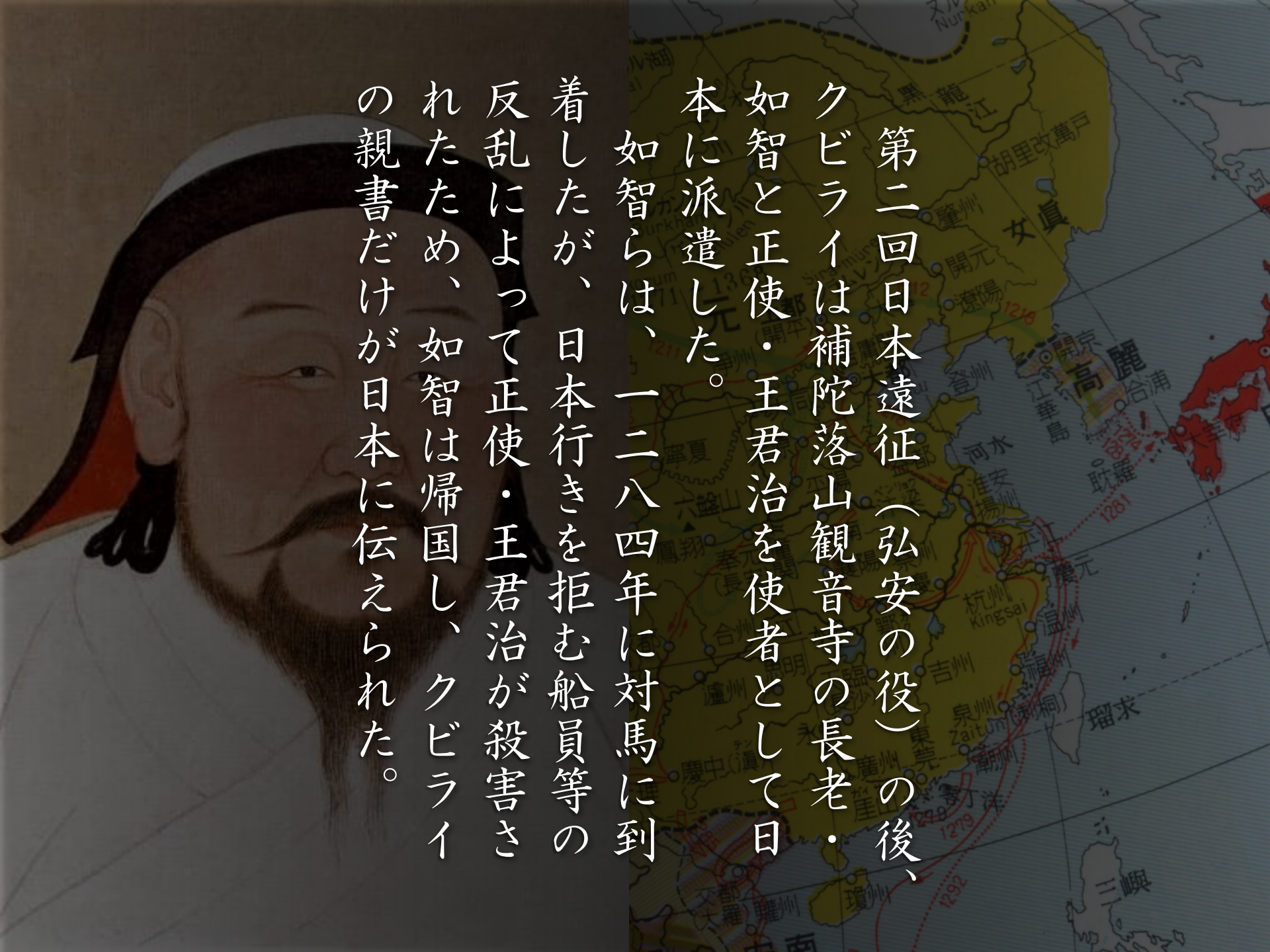


①南宋の遺臣 ②禅宗の僧侶

二度にわたる遠征が失敗した後、元はふたたび日本に使節を送るが、外交使節が殺されぬよう意外な人々を外交官に起用する。それはどのような人々か？

Q



The background of the image is a composite. On the left, there is a portrait of a man with a long black beard and a white headband, likely a historical figure. On the right, there is a map of East Asia, showing parts of China, Korea, and Japan. The map includes various place names in Chinese and Japanese, and red lines indicating routes or borders. The text is overlaid on the right side of the image, over the map.

第二回日本遠征（弘安の役）の後、
クビライは補陀落山観音寺の長老・
如智と正使・王君治を使者として日
本に派遣した。
如智らは、一二八四年に対馬に到
着したが、日本行きを拒む船員等の
反乱によって正使・王君治が殺害さ
れたため、如智は帰国し、クビライ
の親書だけが日本に伝えられた。



モンゴルの第五代皇帝クビライ

記宣諭日本國詔文曰上天眷命皇帝聖旨諭日本國主向者彼先遣使入覲朕亦命使相報已有定言想置於汝心而不忘也頃回信使執而不返我是以有舟師進問之役古者兵交使在其間彼輒不交一語而固拒王師據彼已掌抗敵於理不宜遣使茲有補陀禪寺長老如智等陳奏若彼興師致討多害生靈彼中亦有佛教文學之化豈不知大小強弱之理如今臣等貢奉聖旨宣諭則必多救生靈也彼當自省懇心皈附准奉今遣長老如智提舉王君治奉詔往彼夫和好之外無餘善

善隣国宝記卷上

記宣諭日本國詔文曰、上天眷命皇帝、聖旨諭曰、
本國主向者彼先遣使入覲、朕亦命使相報、已有
定言想置於汝心而不忘也。頃回信使執而不返、
我、是以有舟師進問之役。古者兵交、使在其間、彼
輒不交一語而固拒王師、據彼已掌、抗敵於理不
宜、遣使茲有補陀禪寺長老如智等陳奏、若彼興
師、致討多害生靈、彼中亦有佛教文學之化、豈不
知大小強弱之理、如今臣等貢奉聖旨、宣諭則必
多救生靈也。彼當自省、懇心皈附、准奉、今遣長老
如智提舉王君治奉詔往彼、夫和好之外、無餘善

外交官としての僧侶

天命を受けた皇帝、聖旨を發して
日本国王に諭す。かつて彼の国*は
先に使節を派遣して朝見したため、
朕も返使を送つてこれに報いた。す
でに確約を交わしており、汝もそれ
を忘れてはいないだろう。

*原文は「彼」、ここでは日本を指す。人文采之間

宣諭日本国詔文（善隣国宝記卷上所引）

記宣諭日本國詔文曰、上天眷命皇帝聖旨諭曰、
本國主向者彼先遣使入覲朕亦命使相報已有
定言想置於汝心而不忘也頃回信使執而不返
我是以有舟師進問之役古者兵交使在其間彼
輒不交一語而固拒王師據彼已掌抗敵於理不
宜遣使茲有補陀禪寺長老如智等陳奏若彼興
師致討多害生靈彼中亦有佛教文學之化豈不
知大小強弱之理如今臣等竢奉聖旨宣諭則必
多救生靈也彼當自省懇心皈附准奉今遣長老
如智提舉王君治奉詔往彼夫和好之外無餘善

外交官としての僧侶

ところが、彼の国が信使を捕えて返さぬため、朕は水軍を発して咎めさせた。古えは兵を交えるとも使者はその間を往来した。彼の国は一語も交わさずして固く王師を拒んでい
る。すでに敵対した以上、使節を派遣すべきではない。

宣諭日本国詔文（善隣国宝記卷上所引）

記宣諭日本國詔文曰、上天眷命皇帝聖旨諭曰、
本國主向者彼先遣使入覲朕亦命使相報已有
定言想置於汝心而不忘也頃回信使執而不返
我是以有舟師進問之役古者兵交使在其間彼
輒不交一語而固拒王師據彼已掌抗敵於理不
宜遣使茲有補陀禪寺長老如智等陳奏若彼興
師致討多害生靈彼中亦有佛教文學之化豈不
知大小強弱之理如今臣等竢奉聖旨宣諭則必
多救生靈也彼當自省懇心皈附准奉今遣長老
如智提舉王君治奉詔往彼夫和好之外無餘善

外交官としての僧侶

しかし補陀禪寺の長老如智らが、
上奏して言うよう、
「もしまた水軍を発して討伐すれば、
多くの命が失われるでしょう。彼の
国の中にも仏教の感化を受けた者が
おりますれば、どうして大小強弱の
理を知らぬことがありませんよう。」

記宣諭日本國詔文曰、上天眷命皇帝聖旨諭曰、
本國主向者彼先遣使入覲朕亦命使相報已有
定言想置於汝心而不忘也頃曰信使執而不返
我是以有舟師進問之役古者兵交使在其間彼
輒不交一語而固拒王師據彼已掌抗敵於理不
宜遣使茲有補陀禪寺長老如智等陳奏若彼興
師致討多害生靈彼中亦有佛教文學之化豈不
知大小強弱之理如今臣等竢奉聖旨宣諭則必
多救生靈也彼當自省懇心皈附准奉今遣長老
如智提舉王君治奉詔往彼夫和好之外無餘善

外交官としての僧侶

「臣らが聖旨を奉じて宣諭すれば、
必ずや多くの命が救われます。彼の
国もかならずや反省して、心から帰
順することでしょう」と。
この奏請を許して、いま長老如智
と提拳王君治を遣わし、詔を奉じて
彼の国に往かせることにした。

外交官としての僧侶

善なるものは友好のほかになく、悪なるものは戦争のほかになく。これを機に帰順するならば、わが使節とともに来朝せよ。

知、太、小、強、弱、之、理、如、今、臣、等、資、奉、聖、旨、宣、諭、則、必、多、救、生、靈、也、彼、當、自、省、懇、心、皈、附、准、奉、今、遣、長、老、如、智、提、舉、王、君、治、奉、詔、往、彼、夫、和、好、之、外、無、餘、善

焉、戰、爭、之、外、無、餘、惡、焉、果、能、審、此、歸、順、即、同、去、使、來、朝、所、以、諭、乎、彼、者、朕、其、禍、福、之、變、天、命、識、之、故、詔、示、想、宣、知、悉、

後伏見院 正安元年己亥 元成宗大憲三年

彼の者を諭すのは、朕が禍福の変を天命と識るからである。ここに詔示す。よろしくその意を知悉せよ。

宣諭日本国詔文(善隣国宝記卷上所引)



モンゴルの第五代皇帝クビライ



ムールは、日本との関係改善のため、
一二九九年、再び禅僧の外交使節を
派遣した。一山一寧である。

元成宗テムール(1294～1307)

顯聖王金齒國遣使來貢方物庚辰車駕幸上都三
月癸巳緬國世子信合八的奉表來謝賜衣遣還命
慈弘濟大師江浙釋教總統補陀僧一山齋詔使
日本詔曰有司奏陳向者世祖皇帝嘗遣補陀禪僧
如智及三積等奉書通好日本咸以中途有
阻而還爰自朕臨御以來綏懷諸國薄海內外靡有
遐遺日本之好宜復通問今如智已老補陀寧一山
道行素高可令往諭附商舶以行庶可必達朕特從
其請蓋欲成先帝遺意正至於恤好息民之事至其
審圖之甲午命何榮祖等更定律令詔軍官受職罪
重者能改過自新者免其死

元史卷二十成宗本紀三



顯聖王金齒國遣使來貢方物庚辰車駕幸上都三
 月癸巳緬國世子信合八的奉表來謝賜衣遣還命
 慈弘濟大師江浙釋教總統補陀僧一山齋詔使
 日本詔曰有司奏陳向者世祖皇帝嘗遣補陀禪僧
 如智及王積等奉璽書通好日本咸以中途有
 阻而還爰自朕臨御以來綏懷諸國薄海內外靡有
 遐遺日本之好宜復通問今如智已老補陀寧一山
 道行素高可令往諭附商舶以行庶可必達朕特從
 其請蓋欽成先帝遺意正至於怡好息民之計正其
 審圖之甲午命何榮祖等更定律令詔軍官受職罪
 重者罷職輕者降其散官或決罰就職停俸期年許
 令自焚戊戌熒惑犯輿鬼陞御史臺殿中司秩五品

顯聖王金齒國遣使來貢方物庚辰車駕幸上都三
月癸巳緬國世子信合八的奉表來謝賜衣遣還命
妙慈弘濟大師江浙釋教總統補陀僧一山齋詔使
日本詔曰有司奏陳向者世祖皇帝嘗遣補陀禪僧
如智及王積善等奉璽書通好日本咸以中途有
阻而還爰自朕臨御以來綏懷諸國薄海內外靡有
遐遺日本之好宜復通問今如智已老補陀寧一山
道行素高可令往諭附商舶以行庶可必達朕特從
其請蓋欽成先帝遺意正至於恤好息民之計正其
審圖之甲午命何榮祖等更定律令詔軍官受職罪
重者罷職輕者降其散官或決罰就職停俸期年許
令自效戊戌熒惑犯輿鬼陞御史臺殿中司秩五品

南禪寺の住持となつた禪僧国使

(大德三年三月)妙慈弘濟大師江浙
釋教總統補陀僧一山に命じて、詔を
奉じて日本へ使いさせた。

顯聖王金齒國遣使來貢方物庚辰車駕幸上都三
月癸巳緬國世子信合八的奉表來謝賜衣遣還命
慈弘濟大師江浙釋教總統補陀僧一山齋詔使
日本詔曰有司奏陳向者世祖皇帝嘗遣補陀禪僧
如智及王積翁等奉璽書通好日本咸以中途有
阻而還爰自朕臨御以來綏懷諸國薄海內外靡有
遐遺日本之好宜復通問今如智已老補陀寧一山
道行素高可令往諭附商舶以行庶可必達朕特從
其請蓋欽成先帝遺意正至於恤好息民之計正其
審圖之甲午命何榮祖等更定律令詔軍官受職罪
重者罷職輕者降其散官或決罰就職停俸期年許
令自效戊戌焚惑犯輿鬼陸御史臺殿中司秩山

南禪寺の住持となつた禪僧国使

詔に曰く「所管の役人によれば、
むかし世祖皇帝(クビライ)は、補陀
禪僧如智と王積翁(君治)ら二名を派
遣して、詔を奉じて日本との通好を
図つたが、途中で妨害に遭い、帰還
することになった。」

顯聖王金齒國遣使來貢方物庚辰車駕幸上都三
月癸巳緬國世子信合八的奉表來謝賜衣遣還命
慈弘濟大師江浙釋教總統補陀僧一山齋詔使
日本詔曰有司奏陳向者世祖皇帝嘗遣補陀禪僧
如智及王積善等兩奉璽書通好日本咸以中途有
阻而還爰自朕臨御以來綏懷諸國薄海內外靡有
遐遺日本之好宜復通問今如智已老補陀寧一山
道行素高可令往諭附商船以行庶可必達朕特從
其請蓋欽成先帝遺意正至於恤好息民之計正其
審圖之甲午命何榮祖等更定律令詔軍官受職罪
重者罷職輕者降其散官或決罰就職停俸期年許
令自效戊戌焚惑犯輿鬼陸御史臺郎中司秩

南禪寺の住持となつた禪僧国使

「朕が即位して以来、いずれの国と
も良好な関係を築いており、日本と
も国交も回復すべきと考えている。
いま如智はすでに高齢のため、高僧
の補陀（一山一寧）を商船とともに派
遣し、勅諭を伝えることにした。」

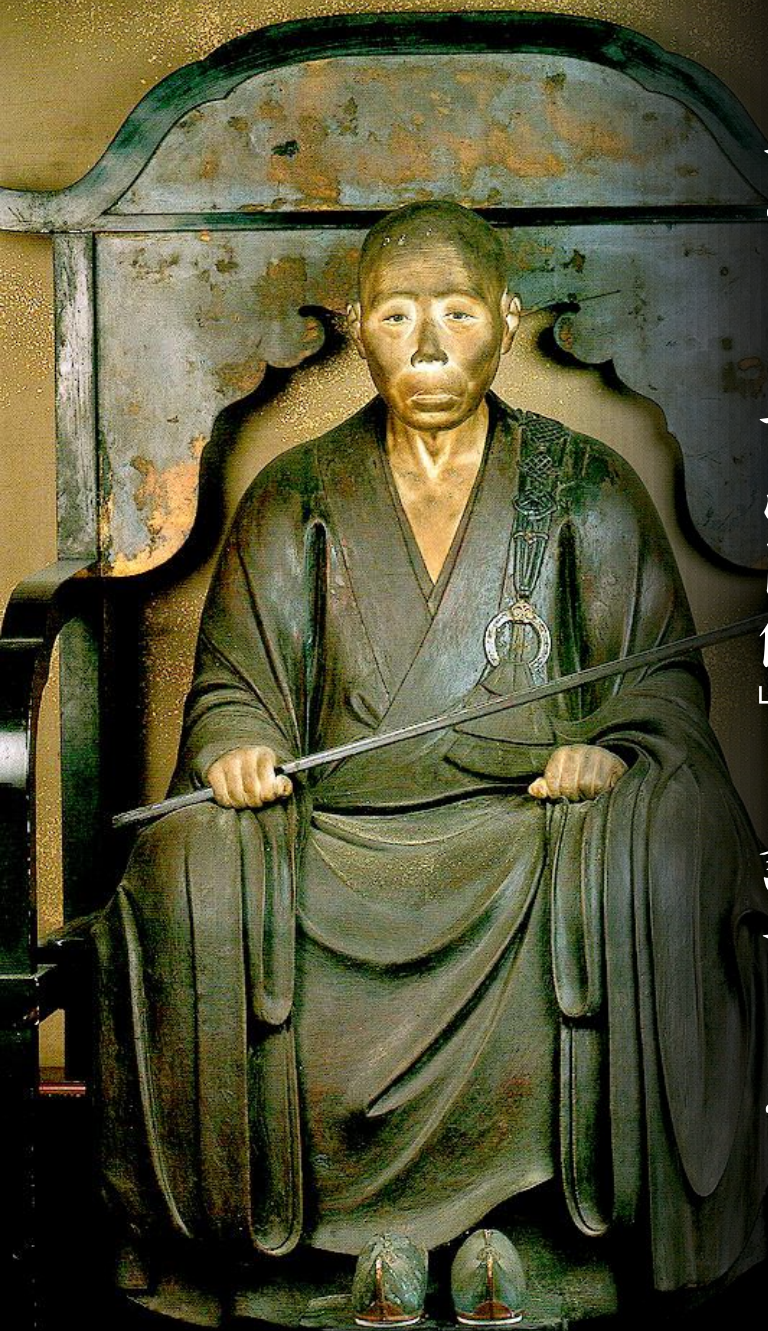
顯聖王金齒國遣使來貢方物庚辰車駕幸上都三
月癸巳緬國世子信合八的奉表來謝賜衣遣還命
慈弘濟大師江浙釋教總統補陀僧一山齋詔使
日本詔曰有司奏陳向者世祖皇帝嘗遣補陀禪僧
如智及王積善等兩奉璽書通好日本咸以中途有
阻而還爰自朕臨御以來綏懷諸國薄海內外靡有
遐遺日本之好宜復通問今如智已老補陀寧一山
道行素高可令往諭附商舶以行庶可必達朕特從
其請蓋欽成先帝遺意正至於恤好息民之計其
審圖之甲午命何榮祖等更定律令詔軍官受職罪
重者罷職輕者降其散官或決罰就職停俸期年許
令自效戊戌焚惑犯輿鬼陸御史臺殿中司秩五品

南禪寺の住持となつた禪僧国使

「朕がその要請に従うのは、先帝の
遺志を成就したいからである。民を
安んずることについては、日本国王
によく考慮してほしい。」

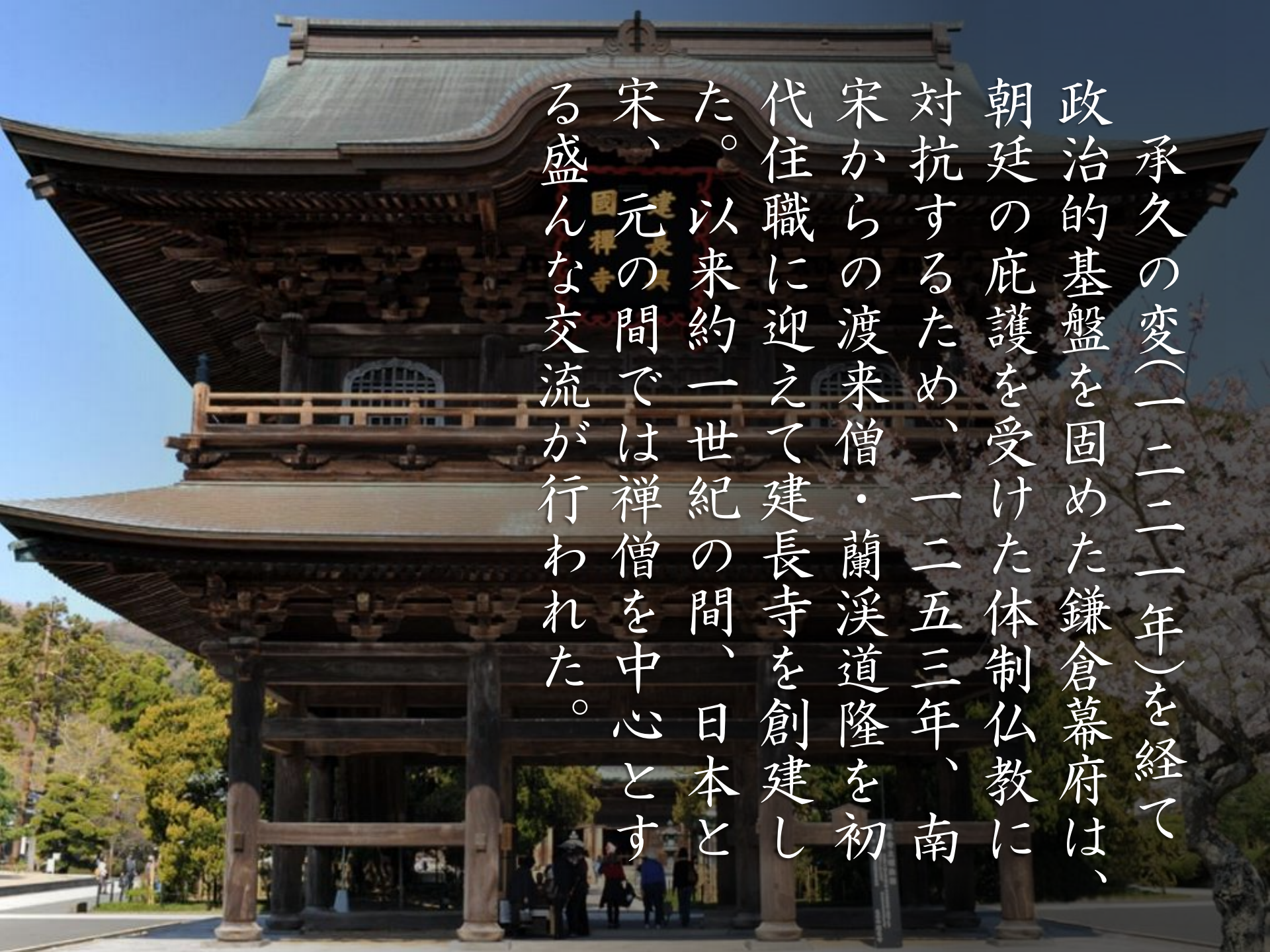
一山一寧（一二四七〜一三一七）

中国臨済宗の禅僧。一二九九年、元の成宗テムールの命を受け、国使として来日。鎌倉幕府執権の北条貞時により一時幽閉されたが、まもなく釈放され、鎌倉の建長寺、円覚寺、浄智寺の住持を歴任した後、一三一三年、後宇多上皇の招きで京都の南禅寺の住持となった。優れた学識により人望を集め、没後、花園天皇から「一山国師」と諡号された。



一山一寧坐像（京都・南禅院蔵）

承久の変（一二二一年）を経て、
政治的基盤を固めた鎌倉幕府は、
朝廷の庇護を受けた体制仏教に
対抗するため、一二五三年、南
宋からの渡来僧・蘭溪道隆を初
代住職に迎えて建長寺を創建し
た。以来約一世紀の間、日本と
宋、元の間では禅僧を中心とす
る盛んな交流が行われた。



禅宗は国家や民族の壁を越えて、東アジアの人々を結びつけた。山形県鶴岡市にある国見山玉川寺は、一二五一年に高麗からの渡来僧・了然法明（りょうねんほうみょう）禅師が開いた禅寺である。





中巖円月像（京都・靈源院蔵）

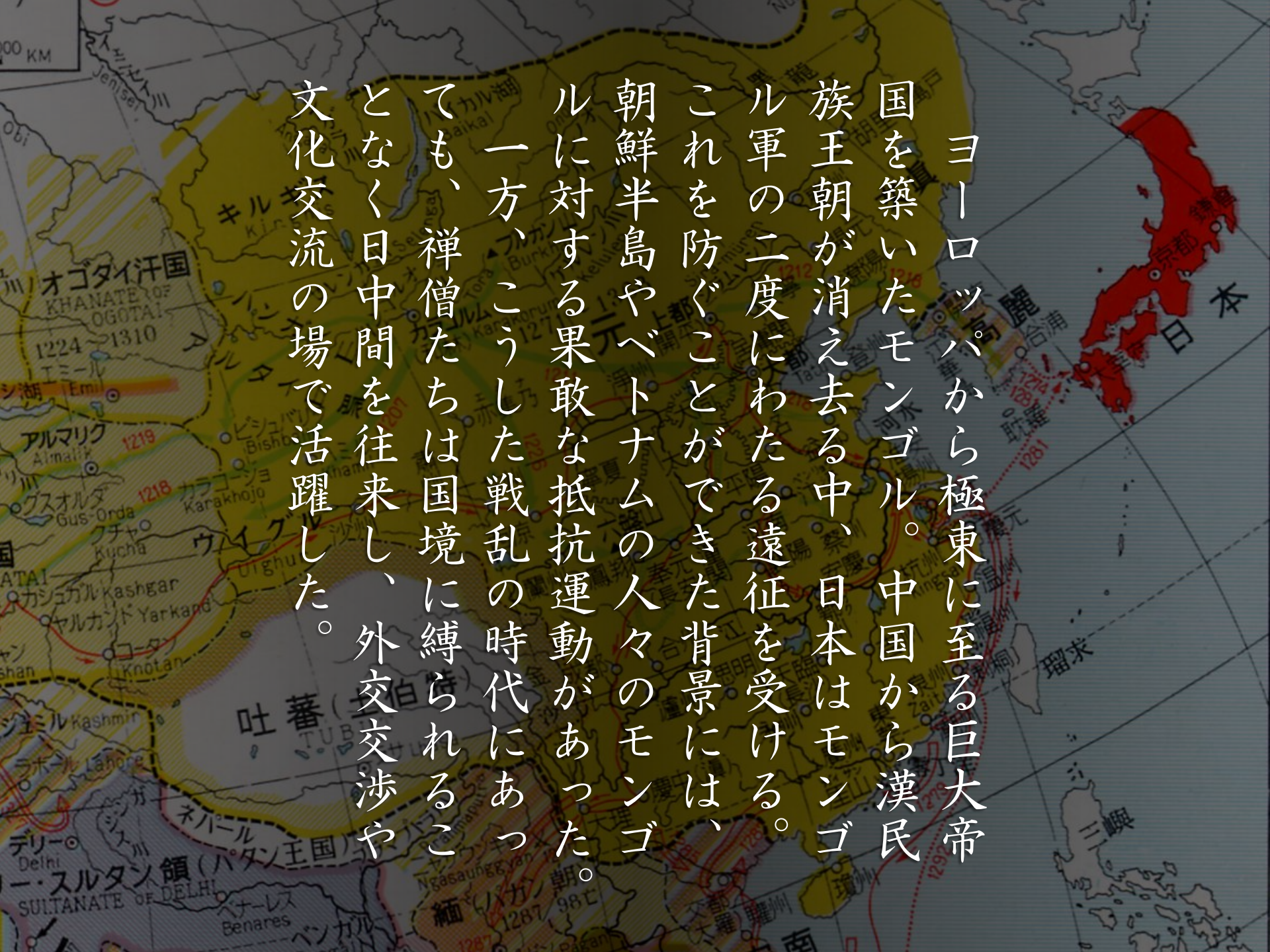


0		
100	後漢 206BC~220AD	
200	魏 220~265	蜀 221~263 吳 222~280
300	晋 265-316	
400	五胡十六国時代	東晋 317-420
500	北朝 439-589	南朝 420-589
600	隋 581-619	
700	唐 618-907	
800		
900	五代十国 907-960	
1000	遼	北宋 960-1127
1100		
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279
1300	元 1271-1368	
1400	明 1368-1644	
1500		
1600	清 1616-1912	
1700		
1800	清 1616-1912	
1900		
2000	中華民國 1912-1949	
	中華人民共和國 1949-	

遣使の時代
600~894

民間交流の時代
禪僧による交流

0	弥生時代 紀元前?世紀~3世紀	
100		
200		
300		
400	古墳時代 4世紀末~?	
500		
600	飛鳥時代 6世紀末~710	
700	奈良時代 710~794	
800	平安時代 794~1192	
900		
1000		
1100		
1200	鎌倉時代 1192~1333	
1300	室町時代 1336~1573	南北朝時代
1400		
1500		戦国時代
1600	安土桃山時代 1573~1603	
1700	江戸時代 1603~1868	
1800		
1900	近代 1868~1945	
2000	現代 1945~現在	



ヨーロッパから極東に至る巨大帝国を築いたモンゴル。中国から漢民族王朝が消え去る中、日本はモンゴル軍の二度にわたる遠征を受ける。これを防ぐことができた背景には、朝鮮半島やベトナムの人々のモンゴルに対する果敢な抵抗運動があった。一方、こうした戦乱の時代にあっても、禅僧たちは国境に縛られることなく日中間を往来し、外交交渉や文化交流の場で活躍した。

参考文献

- ・ 網野善彦『蒙古襲来』（小学館文庫 二〇〇一年）
- ・ 西尾賢隆『中世の日中交流と禅宗』（吉川弘文館 一九九九年）
- ・ 村井章介「国際社会としての中世禅林」（吉田光男編『アジア理解講座④日韓中の交流』山川出版社 二〇〇四年）
- ・ 村井章介『日本中世の異文化接触』（東京大学出版会 二〇一三年）